

「いのちを守れ！ フクシマを忘れない さよなら原発」の全国集会が 3 月 20 日に代々木公園野外ステージで行われました。フクシマ関連報告、原発関連報告、連帯する団体のあいさつを私は、約1時間半、立ちっぱなしでしたが、熱心に聞きました。今回は、あまりの苦しさ、涙をこらえられないお話がいくつかありました。

その一つは、原発で働く人の問題です。北九州の原発で働いていた若い方が、フクシマの事故収束作業を手伝ってほしいと言われ、義侠心に溢れ、フクシマの現場へ移って働かれましたが、現在、急性骨髄性白血病を発症し、鬱病にもなり、療養生活を送っていると言う現実でした。彼は「あらかぶ」と名乗っていますが、安全管理の杜撰さ(鉛の遮蔽ベスト不足、アラーム警報の無視)が日常茶飯事で、労働者の使い捨てだと、東電の冷酷な対応に苦しんでいます。フクシマの原発労働者は約 6000 人ですが、下請け、孫請けの会社の作業員が大半で、人出不足です。事故の収束まで、今後 50~100 年間、労働者は被曝と向き合って働かなければなりません。



フクシマの原発事故を受けて、全国すべての原発の稼働が停止したのも、わずか数年、原子力規制委員会は原発の10基を新規性基準に適合していると審査し、そのうち5基が稼働しました。住民の反対により、稼働差し止めの仮処分がされていた高浜原発の2基を、3月28日に大阪地裁が取り消しました。30日には広島地裁が伊方原発の停止を求める請求を退けました。原発労働者はもとより、地域住民はさらに被曝の危険と向き合わなければなりません。

また 28 日に、国連の核兵器禁止条約制定に向けた交渉に、日本政府は不参加を表明しました。唯一の被爆国として、核軍縮にどれだけ重要な立場にあって、大事な役割を身を持って果たせるはずの日本なのに、なんということでしょう。カナダ在住のヒロシマ被爆者は「自分の国に裏切られた」と訴えています。全く同感です。アメリカの核の傘に守られているとする日本政府は北朝鮮の核実験を非難し

ますが、なんという矛盾でしょう。29日、日本の大企業の一つ・東芝は、アメリカでの原子力事業の子会社が破産、破綻したと発表しました。福島原発でも東芝の優秀な人材が設計をしたはずですが、事故を想定できず、原発を動かしたのです。この責任もあるのではないのでしょうか。



政府は放射線の年間積算線量が 20 ミリシーベルト以下の地域の避難指示解除をし、帰還せよと、住宅費援助も打ち切ります。しかし県外に自主避難した世帯の約80%が、今後も避難先で生活するという意向を示しています。福島では、被曝に向き合い、日々恐れ、緊張して暮らさなければなりません。帰りたくても帰ることが出来ないのです。これが命を守る道と言えるのでしょうか。